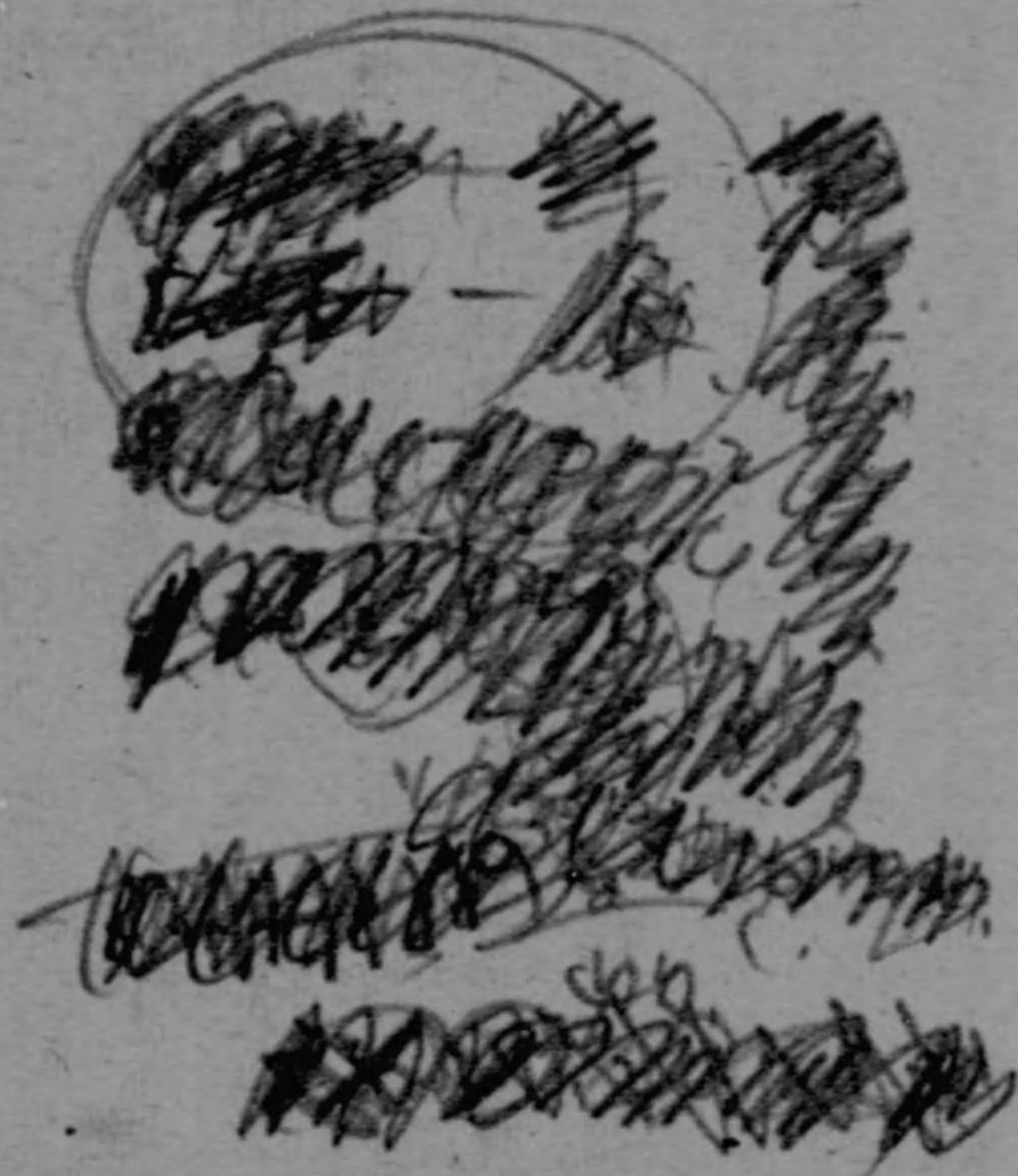


を確立する事であるのだ。かゝる範圍を明確にして始めて歐洲新秩序圈の形體が、その完全なる骨骸を得たのである



A B C D 對日包圍陣

A B C D 對日包圍陣が結成されて壓力を振るひはじめたのは昨年七月の日・佛共同防衛成立以後である。

わが佛印平和進駐に對し、アメリカは直ちに資産凍結を実施し、次いで英國蘭印もまた歩調を揃へて資産凍結を実施したので、わが國とこれらの國との間には、經濟關係は自然に斷絶状態に落入つてしまつた。

日米間の經濟關係悪化は、これより先一九四〇年一月からはじまつた日米無條約時代に端を發する。その後ドイツの蘭白作戰、フランスの降伏など英國側の敗色が濃くなるや、日米間の通商無條約状態は一步前進して、對日經濟壓迫となり、工作機械を初め航空機とその附屬品、機械、石油、鉛、屑鐵等の輸出

許可制がはじまつた。だが昨夏日佛印共同防衛成立に際してアメリカの取つた資産凍結手段は、經濟措置としては最後の奥の手であつた。

それからA B C D對日包圍陣がはじまつた。A B C D包圍陣は經濟壓迫の最後の一手まで出し切つたアメリカが、直接武力に訴へてわが國を屈服せしめるまでの豫備行動であつた。即ち戰闘準備の布石であつたのだ。C Dの國家からいへば、アメリカと英國は、支那、和蘭を戰爭の第一線に押し立て、恰も英國が蘭白佛を英本土防衛の外壕たらしめた如く、支那、和蘭の楯にかくれながら、戰闘の準備を進め、且戰爭に當つては、日本の彈丸をC Dの楯で受け止めて英米はその背後から安全に日本を攻撃せんとする一石數鳥を狙つたのであつた。

このやうに英米の常套たる狡猾極まる手段が弄されたのだが、一方支那も和蘭も、共に英米の注射なくしては存在出來かねる中毒症狀に入つてゐた。殊に

蔣政權は重慶に遁入して以來、四億民衆の犠牲によつて抗戰だけは續けてはゐるが、實際戰つてゐるものは、その背後の英米の力に外ならなかつた。つまり支那民衆は身體を提供し、英米はその精神を操作して、肉體は神経系統の命ずるまゝに盲目的に動き傷ついてゐるに過ぎなかつた。

クラゲット代將は重慶に入り一ヶ月にわたつて成都から桂林にかけて空軍基地を視察した。彼が重慶政府に使した表面の理由は潰滅支那空軍の再建に外ならぬが、空軍の再建には張良の知謀より、一つの戰闘機が必要であつた。桂林あたりまで彷徨して空軍基地を視察した理由は、日本が南下した時に、南に長く伸びた兵站線を、途中横合から襲はんためであつた。それは蔣政權に全く無意味とは言へぬが、彼に役立つのは一分で残り九分は比島の防衛に外ならぬ。

けれども申譯的に六月中旬重慶へ米國製カーチスフォークP四〇型新銳戰闘機が約一〇〇機到着した。そしてルーズベルト大統領は六月以後、軍籍にある

アメリカ飛行士の重慶陣營參加を認めた。

廣西省から福建省方面には米支共同使用のための飛行場が建設されはじめた。臺灣と一衣帯水の福建省あたりにかゝる飛行場が出来る事には、わが國は無關心たり得ない。支那事變後間もなく昭和十三年のはじめに支那空軍が臺灣を盲爆した事は、わが國の唯一の被爆記録として忘れ得ぬところである。

比島では七月廿六日、日佛印協同防衛成立と同時に、ルーズベルト大統領は緊急措置として十三萬の比島陸軍をアメリカ合衆國陸軍に編入せしめ、マツクアーサー司令官を少將から中將に進級せしめて、その極東司令官に任命した。

また海軍に就いてもアメリカは既に昨年末大型潜水艦十二隻からなる一隊を比島へ増派して潜水艦戦術のアメリカ切つての權威といはれるトーマスハート亞細亞艦隊司令長官の隷下に配した。

潜水艦十二隻は、當時アメリカ潜水艦勢力約百二十隻から推すならば十分一

に相當する有力なものである。

支那及び比島に對するアメリカの措置は着々と進行した。

一九四一年、赤熱の赤道にも秋風がわたり初めると、A B C D陣營は俄然色めき立ち、對日包圍態勢は高潮した。

九月廿八日シンガポールで馬來、濠洲の英國東亞軍事會議が開催された。

集る者は、英國極東軍司令官ボバム大將、レイトン支那艦隊司令長官、クロスビー泰公使、トーマスマ來總督、カー重慶大使、ページ濠洲商相。

ボバム大將はこの英國極東會議に先立つて蘭印を視察し、蘭印の軍備に就いては充分なる研究を遂げてゐた。

クロスビー公使は泰にある事廿余年、泰國政情に關しては何れの國の外交使臣よりも権力を持つと自誇し、泰國をA B C D包圍陣に加入せしめんとして躍起になつて躍躍してゐた。

續いて十月三日から比島のマニラで三日間にわたり英米軍事會議が開催された。出席者は、英國側から極東軍司令官ボバム大將、米國側からはマックアースー極東軍司令官、重慶軍事顧問マグルー代將、アジア艦隊司令長官トーマスハート大將、マニラ英米軍事會談が、英米對日共同戦線の結成から、對日共同武力措置に到るまで遺憾なく協議された事は言ふ迄もない。

會議が終了するや成案を得たマグルー代將一行は揚々として重慶政府へ乗り込んだ。

その日即ち十月九日、各部門の専門家から成る軍事使節團第二班が香港に到着した。

同十二日には蘭印參謀長ポールラン將軍がマニラへ飛行機で駆けつけた。

その前には比島空軍代將クラゲット代將が蘭印を訪問してゐる。

A B C D包圍陣營に於ける軍首腦の動きは、まさに風雨到らんとするあはた

ゞしさを示した。

一方香港では、對日作戦開始後の上海放棄に伴ふ經濟對策が立てられてゐた。夙に法幣維持のため、去る四月アメリカから五千萬ドル、イギリスから五百萬ポンドの法幣安定資金が提供されてゐたが、七月の資産凍結によつて法幣救濟策は暗礁に乗りあげた。事變以來三年間に於ける重慶政權の入超は實に六三億元を突破してゐる。併も上海市場で闇市場の騰貴を防止しつゝ法幣の維持をはかる事は極めて困難な事であつた。紙幣の濫發は既に奥地インフレを誘發しており將來必至の法幣慘落を防止せんがためには、この際適正なる爲替相場を決定してその安定をはからねばならなかつた。

十月六日香港で開催された英米經濟會議には、米國側からルーズベルト特使クレイデー、財政代表コクラン、英國側から財政經濟界代表ニーマイヤーが出席した。而し香港會議は、東亞に於ける英米蔣經濟提携のいかんとも爲し難

い挽歌であつた事は言ふ迄もない。上海市場の法幣はかゝる對策を尻目に崩落の一途を辿つてゐた。

一方獨蘇戰勃發と共に、世界的媚態外交の天才といはれるリトビノフがアメリカ大使になつて渡米して以來、蘇聯を抱き込んでA B C D陣營に参加せしめんとする策動が盛んになつた。

アリユーション方面では南方の包圍陣に呼應してダッチハーバーに航空隊が開設された。ダッチハーバーが武裝した事は、アリユーションに沿つて伸びたアメリカの指先を少し動かして蘇聯のコマンドル諸島、或はカムチャツカ半島を對日包圍陣に抱き込まんとする漸進政策の現はれである事に間違ひない。

南から、北から、對日壓迫の戰雲は漠々として深まるばかりである。蔣政權までがこれに呼應してシアンステートに兵を進駐させた。また佛印國境の兵馬の動きもあはたゞしい。

かゝるうち、十月はじめ新嘉坡へはアメリカ自慢の空の要塞ボーイングB一七型が二〇機送られてきた。新嘉坡からビルマルトを経て重慶政權に送り込まんがための途中のデモンストレーションであつた。

空の要塞が重慶に送り込まれたのは最初である。その意圖は明瞭である。戰鬥機は重慶防衛に役立つだけだ。長距離爆撃機の蔣政權陣營増加は、進んでわが國を脅やかさんとする侵略のための槍騎兵に外ならない。

十二月に入れば對日包圍陣には既に一陣の殺氣が棚引き出してゐる。

十二月二日アメリカに於ける日米第七次會談に於て、アメリカは佛印増兵に關し對日紹介を發したと聲明した。當局者の間に、密かに進められつゝあつた會談の内容は、恫喝的にアメリカによつて曝露された。

同日、比島には非常警戒が下命され、先に支那から總引揚をした海兵隊は比島兵力に加へられてこゝに常駐する旨が聲明された。

馬來半島ではその前日の一日非常事態が宣言された。

香港では待機命令が發せられた。蘭印では空軍に動員令が下命され、空軍全豫備兵が招集された。

今や東亞の事態は急迫した。

出陣せんとして陣營に高鳴る陣太鼓の響きである。

而もワシントンでは、日米交渉に最後の希望を託したわが代表が、アメリカの蒙を啓くべく最後の一瞬まで努力を續けてゐる。

此の頃の國際情勢は、戦機まさに到らんとして一脈凄壯の感を覚えしめる。

かゝる最中、新嘉坡に突然ユニオンジャックの戦艦が入港した。そして間髪を入れず、新嘉坡政廳は、英國東洋艦隊の新設を發表した。

戦艦は英國最新鋭の三五、〇〇〇トン戦艦プリンス・オブ・ウェールズで、既に艦隊長官トーマス・フイリツプス大將が坐乗してゐた。

東亞の包圍陣は、今や堡壘に彈丸を備へ、武装の兵士もまた配置に就いて、命到らば出撃するばかりである。

かくの如く眺めると、大東亞戦争が勃發する迄の緊迫した四周の動きが、歴然として来る。

あとはたゞ命令であり、時の動きであつた。

かゝるA B C D包圍陣の殺氣を感じながら、尙、大東亞戦争來らずと斷ずる者があるであらうか。わが國の砂濱に立つて、A B C D包圍陣の戦雲を考へる時、恰も元寇の役にあたつて、鎖を以て連結した蒙古の軍船三、五〇〇隻が弩を軸に立て、四海を壓しながら、堂々と進撃してきた有様が彷彿とするのだ。

A B C Dの對日壓迫を斷じて捨ておけぬとなすのは當然であつた。

太平洋通商破壊戦

大東亞戦争の特徴

大東亞戦争は武力戦といふよりは、長期の經濟戦である。わが國が五年に互る支那事變を戦かひ乍ら、なほ大東亞戦争に敢闘する所以は、わが國を物質的に餓饑せしめんとするA B C Dの對日包圍鐵環を、坐して受けんより、進んで切開かんがためであつた。大東亞戦争は一言に盡せば生きんがための激闘である。その事は今迄屢々説き來つたところで明瞭である。

アメリカが鳴物入りで騒いだピンソン案やスターク案の如く、侵略的なものでもなければ、喜望峰を経由して、海路遙かに對日壓迫の具に使はんと送り出

した英國東洋艦隊の如き強壓的なものでもない。拱手して、對日經濟封鎖の鐵鎖が強化され、壓縮されるのを待つよりは、死地に飛び込んで活を求めたのであつて、若し對日包圍陣の壓縮されるまゝに荏苒放任するならば、死滅以外道のなかつた事は、何人が考へても明瞭な所であつた。

歴史上、弱少國家が、侵略乃至攻撃を受ける危局に際し、一戦も交はさずして城下の誓ひを乞ふた例は尠なしとしない。

殊に歐洲の如く、狹隘なる地域に多數の小國家が存立する時には、武力の強壓に抗せずして膝を屈する事は、怪しむに足りない。和蘭本國の如きは、強國の間に三百年の歴史を綴つた所以は、前後左右へ神技的右顧左瞬の揉手外交を送つたからであつた。

だが、かゝる屈辱に平然たる國家と我が國を同列に考ふるならば、歴史を知らざるも甚だしく、かゝる觀念に於てわが國に臨まんとするならば、連綿二六

〇〇余年の歴史に結晶した皇國の神威は、罰當者めを忽ちにして三途の淵に蹴落して仕舞ふであらう。

元寇の役以來外敵に對する神州の決意は、時代は移つても、微動だにしないかゝる決意は國體と共に不變である。

米英支を中心とした對日包圍陣が結成された事は、わが國の歩む道をたつた一本に規定してしまつた、一億の日本人は、坐して死すより最後の一人に到るまで醜の御楯として對日包圍陣打破のために戦はん事は、天日を見るよりも明らかである。

日本人一億の考へ方が、みなかくの如くであるのに、英米は、日本は戦はずして屈するとなした。古來國家を誤まつた爲政者として汚名を曝した政治家は尠なくないが、ルーズベルト大統領及びチャーチル首相の如く、わざわざ大西洋上で鳩首協議しながら、併も徒らに戦争挑發者であるにとゞまつて、時局の

收拾に驚ろくべき無能振を、英米聯繫によつて發揮したことは、蓋し今後と雖も史上にその比を見ないであらう。

大東亞戦争の勃發を、最もよく知つてゐたのも此の爲政者であつた。特にアメリカは我が國を壓迫して大東亞戦争に到らしめた當事者であるから、戦争の必至な事を最もよく認識してゐた筈である。戦前、日本は石油、潤潤油、屑鐵木材、羊毛、綿花等をアメリカ、カナダ等から輸入してゐた。殊に石油と屑鐵は、戦時重要物資の中でも特に不可缺品なものであるにも拘はらず、殆んど全部がアメリカの供給に依存してゐたので、従がつてアメリカが我が國に對してこれら原料輸出を禁止する事は、いかなる結果を齎らすかを、アメリカ自體が最もよく認識する立場にあつた。殊に石油の如き、わが國では一年間消費の大半をアメリカに依存してゐた事は周知のところである。

かゝる供給をアメリカが中止する時、アメリカに屈して供給を仰ぐか或は他

に供給源を見出すか、二つのうちの一つの道しか残されてはゐない。

従がつてわが國の進路はスターク案に見るやうな大西、太平兩洋艦隊を揃えて挑戦する如き、侵略内至攻撃的戰爭誘發とは全然趣きを異にした。

日清戰爭は、朝鮮を狙ふ露西亞を排除せんとした。即ち歐洲の魔手から、朝鮮を解放せんとして、たま／＼東學黨の亂に端を發して日清間の開戦となつたもので、わが國土を周邊の脅威から防衛せんがための一戦であつた。

續いて後十年にして起つた日露戰爭は、滿洲を併合せんとする露西亞の野望をくだき東亞の安全を護らんがためであつた。

滿洲、支那事變もまた然りであるが、今次大東亞戰爭は極めて明瞭な經濟戰である所に、從來のものと趣きを異にしてゐる。

經濟戰の特質は、戦後に於ける經營が隨伴することである。

ふりかゝつた火の粉を拂ひのけるばかりでなく、經濟戰の勝利は、經濟建設

を意味する。持たざる日本が、これを機會に、禍を轉じて福となし得る事も、また可能なのである。かゝる意味に於ては、大東亞戰爭は、戰爭目的を最も生活の測近に意識する戦ひといふ事が出来る。

大東亞戰爭の主要な戰場は海上である。海外に在る經濟資源の交流をはからんがためには、勢ひ途中の海上權力が重要な問題になつて来る。

海上權力を掌握しなければ、かゝる經濟目的は達成せられぬので、その獲得をめぐつて戦闘がはじまる事は當然である。

要地爆撃戰

海上に於ける大東亞戰爭は、先づ要地爆撃戰を以て開始された。

開戦第一日、海軍航空部隊が、東西六千裡にわたる勇大無比なる大戦線の要衝を爆撃したのはそれだ。

尤も、右のうち最東端に位した布哇攻撃は、真珠灣に蟄伏せる太平洋艦隊との決戦が目的であつたから、必らずしも要地爆撃の範疇には入らぬであらうが併しフィリピン、馬來半島は明らかに、る意圖に發したものである。

殊に西經一六〇度の布哇から、日附變更線を突破して、東經一〇〇度の馬來半島にわたつた規模宏大な大作戦は、必然的に大きな時差の開きを覺悟しなければならぬ。

布哇は既に朝でわが海軍航空部隊との間に大激闘が展開されてゐる頃フィリピンはまだ夜半だ。馬來はそれよりなほ遅れる。つまり太陽は、布哇から比島馬來と暫時照射するが故に、あと程夜明が遅くなつてゐる。而るに電波は、距離を黙殺して一瞬に地球の果を結ぶ。布哇海戦の報をマニラが接受した時には比島は未だ深夜であつた。

比島から九州までは、わづか約一、三〇〇哩である。

戦前比島には約五百機の飛行機が待機してゐた。

その中には沿岸哨戒用の飛行艇、長距離用の大型爆撃機、中型爆撃機が五分の一以上を占めてゐた（マニラが陥落する迄に、わが海軍だけでも敵大、中型爆撃機八八、飛行艇二六を撃、墜破してゐる）

その中には、ダグラス一七をはじめ、ダグラスB一九型もいた模様である。ダグラスB一九型は航続力一二、〇〇〇キロといはれ、マニラ、東京間の往復が可能である。

これらの航空兵力を以てして、アメリカは充分わが方を爆撃し得るのである併も、わが航空部隊が比島を初空襲した時、比島上空では敵の哨戒飛行機が待構えてゐた。それは布哇との時差によつて、既に布哇海戦を知つてゐた證據であつたのだ。時差の隙に乘じて若しアメリカが決行せんとすれば必らずしも日本空襲は不可能ではなかつたわけだ。併もこれは、アメリカが日本を攻撃し

得る最大の機會であつた。何故ならば、太平洋艦隊主力は夙に撃沈され、マニラは一月二日陥落し、英國東洋艦隊主力もまた潰滅したのちに於ては、アメリカが日本を空襲し得る公算は、極めて微弱になつたからだ。

もつとも航空母艦を以て空襲に來る事は不可能ではないが、ウエーキ、ガム比島を喪失したのち航空母艦を護る艦隊を出勤させる事は太平洋艦隊主力を失なつたアメリカに取つては極めて困難であり、さればと言つて航空母艦單艦の出勤は、徒らに太平洋の藻屑となるばかりで、開戦一ヶ月にしてアメリカの戰略態勢は著るしく不利となつた。

即ち、要地爆撃戦に於て、わが方の勝利は壓倒的效果をあげたのである。それが即ち開戦後なほアメリカ、イギリスの飛行機が、わが本土を寸尺も覬覦する事態はず、マニラ、香港、グアム、ウエーキと對日第一線包圍基地の相次ぐ失陥にも拘はらず、それを救援、奪回する事の出來ぬ所以なのだ。

太平洋上の米領土から日本を直接空襲せんとするアメリカの企圖は、比島の喪失によつて畫餅に歸したとみてよい。即ちアメリカの第一期對日空襲計畫は全く瓦壞して、アメリカは次の一手を考へざるを得くなつた。併し要地爆撃戦は、これを以て終熄したのではない。

こゝに言ふ要地の意味は、わが本土を直接狙ひ得る距離にある米國領及び英國領の軍事基地を指したものであつて、更に通商破壊戦、經濟封鎖戦の第二次海戦形態に於ては、今度はその基地となる要地の爆撃戦が相次いで行はれる事にならう。

なほ、第一次要地爆撃戦の勝利によつて、内地空襲の危機が根絶したとなすのは、當を得ない、開戦後相次ぐわが戦果は、敵主力を潰滅したが、一艦一機と雖も余すところなく殲滅したのではない。近代海戦に於ては、一物も残さず敵を掃蕩するが如き事は殆んど不可能であつて、敵はやがては殘存勢力を集め

てゲリラ戦に轉するであらう。

一九四一年末アメリカの飛行機生産高は月産二、〇〇〇機に達してゐる。これらを携けて機會あれば何とかわが邊土を覗はんとするのは當然であらう。またスターク案によるアメリカ建艦熱は、昨春だけでも軍艦、補助艦を合して一時に三〇〇隻の建艦をはかどらせて居り、今後アメリカの頼む唯一の力は、この狂的建艦能力のみとすれば、建艦にアメリカの余力が注ぎ込まれる事は當然であつて、われ／＼は徒らに開戦當時の勝利に晏如して前途を考へざるが如き一九三〇年代のアメリカの虞を繰り返してはならぬのである。

而も科學の發達は、長期戦の最中にいかなる驚異的兵器を生み出すかは想像すべくもない。譬へば、空の鈍物と渾名されてゐる超重爆ダグラスB一九爆撃機である。

同機は昨年六月廿七日カリフォルニアのクロウザー飛行場で第一回試験飛

行に成功した。全備重量實に八二噸、二、〇〇〇馬力の發動機四基、翼長二二〇呎で、航續力七、七五〇哩といふ。その出現によつて四、五〇〇哩の太平洋も狭くなつた感があるが、兎に角かくの如き大空の怪物が既に完成してゐるのだ。惜しむべしダグラスB一九は最大速度わづかに二一〇哩であるため、大空の鈍物として實戰的價値を疑はれてゐるが、かゝる空の戦艦の出現は、或は、わが國に對して、千五、六百哩位迄の地點に位置してゐた前進基地喪失の傷手を、相當緩和する時代を生せしめるかも知れぬ。即ち太平洋の距離を消滅する事によつて、ゲリラ戦の機會が多くなる事も、當然豫想のうちに入れておかなければならぬのだ。その外亞成層圏飛行時代が來るかも知れぬ。

對日包圍陣の要地爆撃の成功は、開戦當初に於ける凱歌ではあつたが、いつ迄も、それに酔ひ續けてゐる事は許されない。

アメリカが、いかなる犠牲を拂つても、わが本土を空襲せんとするならば、

それは決して不可能ではない。またアメリカとしてもあらゆる手段を考究して反撃の機を狙つてゐるのであるから、敵機來らすとする油断は禁物である。

根據地争奪戰

太平洋海上戰に於て、最も重要なものゝ一つは根據地の奪取戰である。

戰場となつた太平洋は、東西四、五〇〇哩面積一億七千方哩の尨大なる海洋である。

わが海軍潜水艦は、開戰と同時にカリフォルニア海岸沖に出沒して、勇敢なる通商破壊戰を敢行してゐるが、わが沿岸からは、戰鬪海面まで實に五千哩に達するのだ。

併るにアメリカは、わづかわが長崎を距たる一、三〇〇哩にマニラ灣のキャピテ軍港を有しながら、何らなす事なくして、マニラをわが軍の掌中にゆだね

てしまつたが、戰前に於ける一般の戰略態勢論から考へるならば、これはまさに攻守の立場を逆にしたものである。

即ちアメリカ本土に近い太平洋沿岸に、據點を推せぬ日本は、若し通商破壊戰を續けるとしても非常な困難を感じるであらう、併もアメリカ本土の防衛には布哇を頂點としたダツチハーバー、パナマを結ぶ三角防衛線があつて、日本海軍はその視線に引つかゝらずにアメリカ海岸に進出する事は出来ぬであらうとみられてゐた。

併るにアメリカは、日本の南わづか一、三〇〇哩に比島を所有して、對日攻撃態勢は極めて有利である。アジア艦隊を率ひてマニラ灣に待機するトーマスハート大將は、アメリカ切つての潜水艦戰術の泰斗であり、彼の麾下には約廿五隻の潜水艦が配屬せられてゐる。

アジア艦隊が、比島、或は新嘉坡を根據地に西太平洋で活躍するならば、日

本の脅威は深刻であらうと太平洋戦略論者は考へた。

ところが事實はまるで逆であつた。

潜水艦を率ひて活躍する筈の亞細亞艦隊はマニラが失陥しても、なほ所在不明であり、マニラ陥落までにわが近海で、敵の潜水艦に襲撃されて通商破壊の脅威を受けたものは皆無であるが、逆にわが潜水艦は、遠くカリフォルニア海岸で、アメリカ商船隊に甚大な犠牲を與へてゐるのだ。

大東亞戦争が長期化すると共に、海上に於ては、通商破壊戦が熾烈となる。併して通商破壊の効果をあげんがためには、基地の争奪戦が當然生ずる。

グアム、ウエーキ等太平洋上の連鎖基地たる島嶼をアメリカが失つた事はアメリカが太平洋に作戦する場合の致命的な損失である。

フィリピンの喪失は、アメリカの對日包圍陣の崩壊を意味する。

太平洋には無数の島嶼があるが、アメリカが對日作戦の根據地と頼み得るの

は、アリューシャン群島は、戦機未だ熟せず、中部太平洋にあつては、ウエーキ、ミドウエ、バルミラ、ジョンストンを前哨とす布哇海軍根據地である。併も布哇は緒戦の大海戦に於て完膚なきわが蹂躪に任せた。ウエーキは十二月廿三日朝完全に、日本海軍の掌中に歸した。日本を攻略すべきアメリカの海軍根據地は相次いで弱體を曝露し、併も、ウエーキ島の攻略される時など、アメリカは一つの艦艇を派遣してこれを救援せんとする手段さへも取らなかつたのだ。

通商破壊戦

布哇海戦に於ける太平洋艦隊主力の潰滅、馬來沖海戦に於ける東洋艦隊の覆滅によつて、米、英が主力決戦を企圖する公算は激減した。

元來、兩海戦に於けるわが海軍の、歴史的戦果がないにしても、太平洋上の戦争は、主力艦決戦が起り得ないと、夙に各國軍事専門家は共通した意見を吐

露してゐた。即ちアメリカ太平洋艦隊は、真珠灣錨地に蟄伏したまゝ、出撃せず太平洋上では海上艦艇による通商破壊戦か、或は比島、馬來等からする航空機等による爆撃、更に潜水艦による封鎖が活況を呈するであらうとなしてゐた。

アメリカ主力艦が不落の要塞真珠灣の奥に蟄伏してゐて、海戦は専ら補助兵器によるのみとするならば、海上戦闘に於ては、いつまで経つても決定的な勝敗の歸結が起り得ないわけである。

これはアメリカ太平洋艦隊主力を健全なりと假定しての戦略論である。いはんや布哇及び馬來沖海戦によつて、心膽に冷水三斗を浴びせかれた上、主力艦大半を失なつた米國が、殘存勢力を以て乾坤一擲の海上決戦を營みうるものかどうか、専門家ならずともアメリカの至難な立場が判斷出来るであらう。

従がつて海上に於て主力決戦が起れば、今後の海戦は、専ら通商破壊にある事は言ふを俟たない。

「アメリカの悩み」は前項で述べた如く、國防の不可欠資源の中で、どうしても海外の供給に俟たねばならぬものが相當ある。

不足資源の代表的なものには、馬來半島に仰いだゴムと錫、比島からのクローム鑛、支那のタングステン、我が國が供給した生糸等である。

これらを逆にアメリカに渡らないやうに封鎖するならば、アメリカの戦時態勢は著るしい脅威に曝される事となる。

今次歐洲大戦が勃發されてから、大西洋上に展開されたのは専ら通商破壊戦であつた。

英國は一九四一年末迄に開戦以來約一、二〇〇萬トンの船舶を失なつた。英本土では、食糧の半分以上を海外に依存してゐるので、海上交通が遮断される事は、死活に關する重大問題である。

ドイツは今次大戦がはじまるや直ちに、英國に對し潜水艦による海上封鎖を

はじめた。

一九三九年の獨波戰開始の頃、ドイツ潜水艦數は約七十隻であつたが、その後専ら大量生産に着手して、二日に一隻宛位の割合で大量に進水し、一九四一年終りには、ドイツ潜水艦は二〇〇隻近くになつた。

潜水艦で大切なのは乗員の養成であるが、ドイツは商船乗組員をバルト海で訓練して、通商破壊の潜水艦に乗組ましてゐる。

スカツパフロー軍港を奇襲して、鐵十字勳章を授けられたブリーン少佐の如きは商船から潜水艦に轉じた一人だ。

北海は約五百哩平方の廣さを持つ、ドイツ潜水艦は主として最初こゝを戰場として英國大西洋岸を封鎖してゐたが戰線の擴大に伴ひスカンジナビア半島やフランス領であつたところに新たに潜水艦根據地を獲得してから、活動の範圍は非常に廣くなつた。更に一九四一年秋獨伊の話し合ひでドイツ潜水艦が地中海

に出動しはじめた。

かくの如く今次大戰がはじまつてから海上でドイツが企圖したのはひたすら通商破壊戰であつた。

そして獨逸が考へ出したのは戰艦を通商破壊戰に繰出す事であつた。一九三九年暮、ウルグアイ沖で自沈したグラフシュペー（一〇、〇〇〇トン）の最後は南大西洋上で通商破壊を試みた結果の悲劇であつた。

戰艦を通商破壊に出動させて論議の的となつたのはビスマルクであつたらう。

昨年五月廿四日、ドイツ主力艦ビスマルク號は一等巡洋艦プリンツオイゲンと共に、スカンジナビア半島から北上しやがて航路をデンマーク海峡に轉じて一路南下しつゝあつた。兩艦とも速力は三二節、快速のドイツ戰艦なればこそ巡洋艦と共にかゝる行動が許された。

當時英國戰艦で三〇節を越すものは、レバルス、レナウン、キングジョージ五世、プリンスオブウェールズの四艦に過ぎなかつた。

グラフシユペー號の痛ましい思ひ出にもかゝはらず、獨逸が再度竣工したばかりのビスマルク號を、同じくドイツ一等巡洋艦陣營の最新鋭艦プリンツオイゲンと共に通商破壊戦に出動させた所以は、ドイツ主力艦の持つ獨特の速力に期待したからだ、通商破壊を試み、以上は、護衛艦と一戦交へる事は覺悟しなければならぬ。

デンマルク海峽を一路南下しつゝあつたビスマルクは夜が明けると同じ海面で、通商防衛に當つてゐた英國巡洋戰艦フッド號にバツタリ出遭つた。

フッドは四二、一〇〇トン、當時公表されてゐる戰艦陣營の中では、最大のものであつた。フッドはなほキング・ジョージ五世（三五、〇〇〇トン）を随伴してゐた。

此の海戦で、三齊射目の砲彈が砲塔を打破り、火藥庫で炸裂してフッドは一瞬にして撃沈されてしまつた。乗員一、三四一名中、救助されたものわづかに三名であつた。

またキング、ジョージ五世號も傷ついた。デンマルク海峽の一戦が、若しこのまゝで終つたら、ドイツの通商破壊に主力艦を繰出す放膽な戦術は英國を震撼させるに充分であつたらうが、ビスマルク號も自ら傷ついてゐたために、ブレスト沖四百哩の悲壯なる後日物譚を生むに到つた。

キングジョージ五世と別れたビスマルクは單艦大西洋を南下してゐた。この時同艦の速力は可成り低下してゐた。所がその夜イギリス飛行艇に發見され、翌朝まで魚雷攻撃をうけて速力は一五節に半減した。そして廿六日朝再び英海軍に發見されて、遠まきにされながら卅餘時間交戦の末遂にブレスト沖四百哩の海上で沈没した。ビスマルク號の被弾は、魚雷九、發砲彈二〇〇發に及んだ

といはれる。

ビスマルクの最後は、各國専門家に近代海戦の種々な話題を提供した。そして通商破壊戦といふものが、いかに難かしかといふ事を結論づけた。

當時ビスマルクは實數五萬トンに近い巨大なものであつたと言はれる。フツドに曝露した如き装甲々板の弱點等を出來るだけ補ひ、巡洋艦と協同動作の出來得るため三二節の快速を與へられてゐたのであつたから、艦體は自然巨大にならざるを得ない。ビスマルクはフツドの四二、一〇〇噸を凌駕してゐたであらうとなすのは、各國専門家の共通した見解である。

併もなほビスマルクは報復された。ビスマルクが提供した問題は、航空兵力潜水艦を随伴しない戦艦單艦の出動の可否であるが、優秀な條件を具備したビスマルクにしてなほ通商破壊の目的をあげ得ない事をみても通商破壊は、いかに至難かゞ判るのだ。

潜水艦から、飛行機、更に主力艦迄繰出す通商破壊戦は、かくの如く至難ではあるが、他面、通商保護もまた攻撃に劣らぬ困難なものである。

ドイツ海軍力は、英國の六分の一以下だ。併も英國は實勢力に於て、世界の巨大なる海軍國であるが、それがドイツ潜水艦の活躍を、どうにも防遏出來ぬ。

前歐洲大戰の經驗から、英國は商船護衛を考へ出した。

護衛制度が取られたのは一九一七年五月からであつたが、このため英國側船舶の被害は一割以下に激減した。

これより先一九一七年二月ドイツは無制限潜水艦戦を開始して、英國側船舶の撃沈は、二月五四萬トン、三月五七萬トン、四月八八萬トンと急角度に上昇し、このまゝ半歳も續けば、食糧封鎖で英國が參るであらうと見られるに到つた。

併し同五月の採用したコンボイ（集團護衛）制度は、完全に英國の危機を救つたのであつた。

集團護衛制度は、戦時に於て一層外部から物資を輸入しなければならぬ場合商船の危険を顧みずこれを運行させるに當つて取る保護制度の事であつて、海軍は實力を以て商船を保護せんがため、航路の指定、護衛を行ふものである。

飛行機や潜水艦が發達すると護衛制度は益々必要となる。

集團護衛の實際は海上の一地點或は港灣を利用して商船團を編成せしめる。

これに航行序列を與へて體型を組ませる。敵襲による犠牲を尠くするのが目的であるから、主として扇型體形が各國に於て採用される。

扇形體形が組まれて、その周圍を驅逐艦或は飛行機などが護衛して海上を航行するのが直接護衛で、またある一定の水域を商船隊が獨りあるきしても安全なやうに海上警備のなされてゐるのは間接護衛である。

假に扇形體形が潜水艦の襲撃をうけたとする。潜水艦は大抵航路の斜め前方に現はれて魚雷を發射する。従つて商船隊の外側にあるものは犠牲者となるが他は比較的被害をうける率が尠ない。

この時護衛艦は早速潜水艦に向つて爆雷を投ずる、商船隊は此の暇に遁走する。

その他の保護手段としては、防備海面例へば港灣などの出入に當つては一定の水路を海軍の艦艇が掃海し、敵の潜水艦や飛行機が秘かに敷設するかも知れぬ機雷の危険から商船を保護する手段も講せられる。

これは海軍が講ずる保護措置であるが、商船自體もまた自衛手段を施す。

見張の設置、淡煙焚火、無燈航海、高速航行、ジグザグ航海、衝撃航法、機雷回避運動、煙幕展張、偽裝迷彩、武裝等がそれである。

商船武裝は六吋砲以下のもの二門、三吋高角砲一門が國際法に依つても認め

られてゐる。英國が前大戰で此の集團護衛制度を採用した事は非常な成功で、今次大戰に於ては最初から採用されてゐる。

船舶を潜水艦の犠牲から救ふことも、かくの如く厄介なものである。

わが潜水艦の活躍區域は、日本の本土から遠く五千哩も距てたアメリカ海岸である。大西洋で展開されてゐる通商破壊戦とは規模に於て比較すべくもない。

ドイツ潜水艦は近海の封鎖で目的を達し得るが故に、海洋向には主に七〇〇トン級を使用してゐる。七〇〇トン級はドイツの大型の部に入るがこれをわが國に考へるならば、七〇〇トンは呂號潜水艦であつて、伊號は一、〇〇〇トンを遙かに突破してゐる。

即ち潜水艦の通商破壊戦の實相は、規模、威力、效果に於て、わが潜水艦が

初めて描き出してゐるのだ。

併も通商破壊戦に於ける困苦との闘ひもまたわが潜水艦によつて代表されるであらう。

ドイツの例では、海上に出動してゐるのは潜水艦部隊の三分の一といふ事になつてゐる。

三分の一は休養、三分の一は入渠して次の出動に備へ、残り三分の一が海上に出動してゐる。所がわが國の場合では、この率は遙かに減少する。いふ迄もなく、カリフォルニア沿岸まで既にわが本土から四、五〇〇哩距たつて居りいかなる場合を考へても途中の距離に相當の時日を消費しなければならぬ。従つて三分の一のドイツの例が、我が國の場合には更に減少するのは當然の事である。

かゝる條件下に、なほわが潜水艦による撃沈噸數は、開戦以來一ヶ月を經ぬ

間にアメリカ一ヶ月の商船建造能力を突破した。

大本營海軍部發表（昭和十六年十二月廿九日）

帝國海軍潜水艦ハ目下米本土沿岸並ニ布哇方面ニ作戰シ同方面ノ敵海上交通

ニ深刻ナル打撃ヲ與ヘツツアリ

十二月廿五日迄ニ判明セル戰果左ノ通り

(一) 擊沈船舶 一〇隻 七萬トン

(二) 大破船舶 三隻 三萬トン

(三) 右ノ他損害ヲ與ヘタル船舶 約五隻 約四萬トン

(註大破とは修理不能または極めて困難なるもの、意味)

而るに一九四一年中に於けるアメリカ商船建造率は、平均一ヶ月約七萬噸であつて、わが擊沈大破せしめた噸數は、アメリカ造船能力を突破したのであるが同時に我が方も敵の潜水艦に對して油斷してはならぬ。

アメリカは潜水艦の發達した國である。現有勢力約一二〇隻中、新銳艦は三〇隻であるが、それは何れも一、五〇〇トン以上、或ひは世界に誇るアーゴノート級は二、七〇〇トン航續距離は二萬六千哩を突破してゐる。

かゝる超大潜水艦は數隻に過ぎぬが、これらの活躍もまた豫期しなければならぬ。殊に潜水艦の活躍する海面は無限であるから、たとへ敵潜水艦による犠牲があつても豫期せる行動として周章する必要はいさゝかも無い。

潜水艦はこの外海上偵察戰の花形兵器としても活躍する。

巨大な行動力と持續力を持つてゐるが故に海上偵察戰の花形兵器としても充分その活躍が期待される。昨年十二月十日の馬來沖海戰に於て擊沈させた東洋艦隊プリンス・オブ・ウェールズ號等は九日午後新嘉坡軍港を出港したが、海上でわが潜水艦に眞先に發見されてゐる。潜水艦の飛電一閃が馬來沖海戰を展開せしめたのであつて、勝利の糸口を造つたのは潜水艦であつた。

抑々わが潜水艦が、本格的實戦に参加するのは、大東亞戦争が皮切りである。日露戦争の時は潜水艦はドン龜時代の幼稚極まるもので、實戦には参加していなかつたが、マカロフ提督が旅順港口で旗艦諸共爆沈した時、潜水艦襲撃を受けたものだと誤認し海上の浮流物に亂射を浴びさせたのは、一つ話として残つてゐる。

以來わが潜水艦は、佐久間艇長の六號艇の如き犠牲を拂ひ、獨特の進歩を遂げてきたが漸やく本格的な海戦に参加し得る機會に恵まれた。

今次大東亞戦争こそは、わが潜水艦に取つて眞價を發揮する絶好の好機を掴んだわけである。

太平洋戦争の形態

大東亞海上戦は先づ要地爆撃戦を以てはじまつた。そしてわが國を脅威せん

とする周邊の敵軍事基地には、徹底的痛爆が加へられた、それと同時に布哇海戦に見る如く、太平洋艦隊に徹底的打撃を與へた。續いて根據地奪取戦が開始せられて、アメリカは重要な太平洋軍事據點を次々と喪失した。次に待つものは通商破壊のゲリラ戦である。

わが國潜水艦はアメリカの海岸を脅やかしてゐるが、アメリカ潜水艦もまたわが四邊を襲ふ事を充分覺悟しなければならぬ。歐洲に於ては英國海軍は六分の一以下の獨逸海軍を相手に、その通商破壊戦に忙殺されてゐる。併も前大戰以來二度目の經驗でありながら、通商破壊戦を完全に防ぎ得ないのだ。いはんや我が國の如く、かつてアメリカ海軍の一〇に對して六を強制せられた上に、今なほアメリカ海軍は數字上に於てわが海軍を凌駕してゐる際、アメリカが敢行する通商破壊を西太平洋から、完全に放逐する事は至難の業といはざるを得ない。廣漠たる太平洋上の事であるから、いついかなる敵のゲリラ戦を受ける

やも期し難い。これは受けると考へるのが當然であつて、受けずとなすのはむしろ過信である。

米、英が今後挽回の一手として全力を傾けるのはこの通商破壊戦であらう。

支那事變は大東亞戦争のはじまるまでに既に五年間行はれた。併し支那事變は武力戦の眞の形態からは相當距たつてゐた。

支那海軍は、巡洋艦數隻を中心として存在はしてゐたが、開戦と同時にわが海軍に潰敗させられたので、その後五年間にわたる戦争中、銃後に於ては、直接敵の影を見る事なく一發の彈丸も聽かず、兵站線に於ても何ら脅威を受けなかつた。

海上戦から見れば武力戦の相手といふには、餘りに距りがあり過ぎた。併し米、英との決戦になれば、わが國土を洗ふ波は直ちに布哇沖の長濤に連なるのである。

一月七日の第一雲海丸事件の如く、敵潜水艦はいつわが邊海に出没するやも期し難い。その結果は國民生活の中にも、直接戦争の影を翳すのである。支那事變とは大分趣きを異にしてゐるのを知らねばならぬ。

而も米、英が唯一の希望に抱いてゐるのは通商破壊戦によつて、國民生活が直接脅威をうけたり、或は、長期戦化のために、辛棒し切れなくなつて、わが國內に輿論の分裂が起るのではないかといふ事である。經濟戦の特質は、戦争遂行中、經濟苦難が國民生活に翳す事である。經濟建設が完成してしまへば苦難は消滅するが、それまでの過程に於て、或る物の不足は直接生活に混亂を來す場合もあり、極度の消費規制はやゝもすれば、生活感情に衝突しがちのものである。

而しこゝで國民生活に龜裂が生じてしまへば、經濟戦は武力戦にかつても、思想戦に敗れてしまふ。七年にわたる朝鮮の役が、譯もわからずに終熄してし

まつたやうな破目にならぬとも限らぬ。

米、英が狙ふのはこの國民輿論の分裂である。従がつて、建設途上の苦難と闘ふ事は銃後もまた戦闘に参加する所以であり、かゝる場合の分裂内至屈服は逆に利敵行爲である。

通商破壊戦の犠牲にも屈せず、長期にわたるであらうと豫想される大東亞戦争を屈せずに闘かひ抜くならば、米英相手の戦争の勝利は、言ふ迄もなく絶對にわが掌中に在る。

海上權力の歸趨

海上權力の重要性

制海權の歸屬の問題は極めて重要である。

制海權の獲得は、相手に武力的強制を強ひるばかりでなく、マハンの言ふ如く平時に於ける通商及び航海を含むが故である。

世界の歴史を眺めてみても、陸戦に破れてもドイツの如く立直る事が出来るが、海戦に敗れると、容易に舊に復す事が困難であるばかりか、時には國家を俱に滅亡の道連れにすることがある。

日露戦争に敗れた露西亞は、今なほ海軍國としては取るに足らず、支那は日

清戦争で海軍を潰滅して、再び立つ事は出来なかつた。

この事は、海軍の建設は、二年や三年では出来ない事を意味してゐる。例へば主力艦建造には三年は必要であり、乗組員を一人前に仕上げるには五年を要する。

従がつて一旦全海軍が潰滅されたならば、その恢復には十年では困難であるかくの如く海軍の建設は至難な業である。従がつて日頃から傳統を重んじその改良進歩に不斷の努力を重ねる事になる。

大東亞戦争は、經濟戦であるが故に、一そうに通商及び航海の重要性が生じて来る。

我が海軍が大東亞戦争に勝利を得れば、經濟戦の勝利は言ふ迄もないが、海上に於て一旦敗北すれば、二度と復舊し難いほどの徹底的な打撃をうける事にならう。

古來、わが歴史に徴しても、海軍權力を喪失した時には、元寇の國難の如くわが邊土は敵の蹂躪にまかせる外仕方がなかつた。

敗けてよい戦ひは一つも無いが、海軍權力を一度失すれば、當分の間は取返す事が出来ない。日本海々戦にあがつた^る旗の「皇國の興廢此の一戦」の句は制海權の重要性を不滅の名言によつて現はしたものである。

今次大東亞戦争も、その特質に鑑み、特に海力權力を維持、確保するやうに努めなければならぬ。

海上權力の歴史的展望

大東亞戦争によつて、わが國が着々掌握しつつある西、南太平洋制海權の歸屬は、歴史的に考察するならばジングスカンの遠征にも比すべき劃期的出來事である。

太平洋が発見されたのは、一五二〇年マジェランによると言はれる。南米の先端を迂回して、太平洋に進んだ時、波静かな隠やかな海を平和な海即ち太平洋と呼んだ事が、名の起源とされてゐる。

而し、その後現代に到るまで、一億七千方哩の太平洋は、その制海權を委ねるにはあまりも廣漠であり、人智の發達は此の果なき海洋を湖水と化すにはまた余りにも幼稚であり過ぎた。

三千年にわたる支那の歴史は、天候恵かな土地の産物に眩惑されて、殆んど海を顧みなかつた。

太平洋を荒した者は、専ら歐洲人であつたが、その時期が未だ十八世紀前後であつたので、その頃漸やく完成した蒸氣汽船により、僅かに渺茫たる太平洋に挑戦した程度のもので、各國の權力は相交錯し、未だ太平洋の絶體的な制海權の歸屬は生じなかつた。

従つて今われ／＼が握らんとする太平洋制海權は、太平洋史のはじまりをマジェランの發見におくとしても、以來四二〇余年振りにはじめてなされた歴史的なものである。而も大東亞戦争の緒戦に於ける作戦は東西實に五千哩を突破せんとするもので、太平洋の大圏コース四、五〇〇哩に比較してもいさゝかの遜色もなく、まさに、太平洋一杯に繰りひろげられた雄渾無比なる大作戦といふべきであつた。太平洋は、四二〇余年目にしてはじめて人智の前に屈したのであり、その制海權の歸屬は今はじめに論議の對照になされる時が來たわけである。

大東亞戦争の戰場は、實に海上にある。

若し海上の一戦に破るゝならば、大東亞戦争の遂行は不可能となる。

太平洋に於ける制海權を奪はれたと假定するなら、海洋によつて結ばれてゐる大陸並びに島嶼に於ける戦線との連絡をいかになすか。

更に大東亞戦争の特徴をなす經濟戰は、太平洋上にバラ撒かれてゐる島々からの資源を流通する事であるが、それが遮斷されるとせば、四海から隔離された本土だけで何をなし得るであらうか。

太平洋が、今日程わが國に切實な存在となつた事はなく、いまや我が國運の盛衰は、太平洋に於ける海上權力の消長と完全に相併行したのであつた。端的に言へば、わが國運の隆盛と、太平洋海上權力の關係は密接不可分になつたのであつて、もはや二つを分離して考へる事が出来ないやうな時代に到達した。

この事は、我が國運が、史上その比を見ない一大雄飛を今後成さんとする事を豫約するものである。

我が國と、制海權の關係を歴史的に考察するならば、この問題は極めて明瞭となる。

わが海上權力と國運の消長

神代の事は措く。神武の御東征は水軍の力に負ふ所大きく、勢威宇内に振ふたが、當時は未だ瀬戸内海の範圍をあまり出でなかつた。

それが朝鮮海峡を壓して一路大陸に進出したのは神功皇后の新羅御親征であつた。此の頃わが水軍は大いに興り、既にその前、崇神天皇の御代に、造船の必要を御痛感あつて、沿岸住民に御獎勵あらせられたため、新羅御親征の砌には、我が水軍の威武は四海を壓して、舳艫相銜んだ艦艦の威容に、新羅王は戦はずして屈した。高麗、百濟も新羅にならひ、朝鮮半島はわが水軍海軍の勢威に摺伏した。その後約四百年間、朝鮮海峡にはわが海上權が樹立せられたが此の間が、わが海上權力が四海に振るつた絶頂期であつた。

三韓征伐の結果、わが武威は支那に傳はり、その時遼東半島まで進出してゐ

た。魏との間に修交が結ばれるに到つた。魏からはわが國に金帛綿刀等が齎らされ、わが國からは絹が送られてはじめて日支貿易が開けた。なほこれを契機に支那人の歸化する者が續出し、わが歴史はじめての産業革命といはるべき、織物工業の勃興、鐵使用の各種器具が生産され、奴隸使用による勞働力の増加などで國內の産業は大いに振起された。

神功皇后につき應神天皇もまた海事に御關心深く、海人部を定めて沿岸の部民を統一されたので、水運も盛んであつた。また産業革命の結果、造船技術も著るしく進歩して、阿部比羅夫が東北遠征を成し得たのも、實に此の水軍と、造船技術によるおかげであつた。

併しやがて半島に伸びたわが勢威が失墜する時が來た。海軍力の落潮と外交の失敗から欽明天皇の御代に、任那日本府（總督府）は新羅のために滅せられた。神后皇后御征戰によつて築かれた海外發展の金字塔はこゝに滅した。當時

のわが氣風は、海外進出の往年の羈氣は地に委してゐて、任那日本府危しの報に、兵を派したが、唐軍のために海陸の挾撃をうけて慘敗を喫し、遂に半島から總てを放擲して後退するの止むなきに到つた。

この敗戦が契機となつて、國民の志氣は一時に退嬰的になつた。もはや波濤を蹴つて海外へ進出する氣力はなく、徒らに國內の騷擾を繰り返す時代となつた。

筑前に出來た「水城」はこの時の遺産である。則ち、朝鮮半島に於て唐に敗れたばかりでなく、唐が進んでわが國に進攻しはしないかと、國を舉げて敵の來るに戦々兢兢たるものがあつた。

筑前の要所に堤を作り水をたゝえて水城を設けたのは、實に當時の不名譽な外敵脅怖の表象であつた。

傾きかけた海上權は容易に立なほるものではない。爾來數百年、わが國には

海軍なく、國內は徒らに權力の奪取に寧日なき有様であつた。

「文永に海戦なく、弘安に陸戦なし」で知られた元寇の難は、實に海上權を喪失し海を忘れて恬然たるわが國民に下された天譴であつた。

成吉思汗から太宗、更に年代を経て忽必烈と蒙古の盛名を全世界に靡かせた一世の梟雄達が、支那大陸にあつて遠くゲルマン民族までも睥睨した時、わづか朝鮮海峽を距て、わが國を見逃すわけはなかつた。

舳艫銜んだ艦船實に九〇〇隻、二萬五千の蒙古軍と八千の高麗兵を分乗せしめて來寇した有様は、敵乍ら威風四海を壓して盛んなものであつたらう。

長らく海上權力を顧みなかつたわが國は、忽ち大軍の九州敵前上陸を許してしまつた。九州の要地は相次いで陥落した。若し此の時強風が吹いて軍艦二百を沈めなかつたら、いかやうな事態が発生したか判つたものではない。

だが忽必烈はこれ位で辟易する男ではなかつた、彼が再度遠征を企てた時は

九百の軍艦は三千五百に飛躍してゐた。併も強風に備へて互に船を鐵鎖で連絡し、舳には大弓を立て、進攻し來つたから、まさに世紀の壓卷であつたらう。

朝鮮海峽の海波は、艦艫の勢威に摺伏し、島々は忽ち蹂躪されて、史上にこの國難來のあの歴史の一頁となつた。そして此の結果が、西北の神風によつて、一朝に決し、海面を埋める敵屍十萬、流石に忽必烈もこれで進攻を斷念し我が國も辛じて危曲を切抜けたのであつた。此の一戦には、單身敵艦に夜襲して火を放つた天草七郎の放膽、檣を外して敵艦によちのぼり數十人を斬殺した河野通有の勇武など、勇戦敢闘の佳話は幾つも折り込まれてゐるが、肝腎の海上權が全然我が方になかつたため、いかなる敢死激戦も、たゞ防戦のみはえない奮戦記録であるに過ぎなかつた。

併も根本的な問題は、海上權皆無の結果、戰場にはいつもわが國土が選ばれたのである。

これではいかに猛將勇卒が出現しても、その武勳は、たゞ敵をわが國外に放逐するに過ぎぬのだ。而も一步誤まれば、わが方には、極めて重大なる事態が発生する。

海上権力が、國家の消長にいかに深き關聯を有するかはこの史實の一事によつても明瞭である。

いはんやこれを近代戦に推して考ふる時、若し、太平洋海上權が敵の手にあつて、淺間丸事件どころか、戦時に於てそれを一そう劇烈化した事件が、わが鼻先の海面に起るとしたら、距離を消滅した近代戦は、わが全土にいかなる脅威を與ふるであらうか。元寇の國難につれてかく連想すると、今更に緒戦の勝利が尊ばれて来る。

蒙古の撃退を契機に、わが國には湧然として海に對する關心が生じた。眠れる海洋民族性が覺めたとしてもいふべきであらう。

鎌倉時代から、地方の豪族のなかには秘かに私設海軍を設けて近海々運を營んでゐる者があつたが、元寇の來襲を機として大いに海外に乗り出さんとする風潮を生じた。

八幡船の旗標も颯爽と海の風に翻めかせて、その足跡は朝鮮から、支那沿岸全土佛印から比島及び南洋に及んで、遂に倭寇なる名稱を支那人の間につくらせてしまつた。

蒙古の來襲を元寇といふ如く、支那人からみれば八幡船の進出は倭寇であつたのだ。

八幡船は海賊と一概に片附けられるものではない。その目的は交易にあつたたゞ相手が冷淡だつたり豪慢だつたりする時には日本刀を一閃させて暴れまはつた。海賊でない一つの事例には八幡船で支那、佛印、比島に定住する者が多かつた事實をあげうる。要するに私設海軍であつた八幡船には、國家統一がな

かつたので勝手に交易し、状況によつては貿易先に住んだのだ。通り一變の海賊流とは混合すべきではない。たゞ支那沿岸は、その頃から既に名だゝる海賊跋扈の地であつたから倭寇といへば泣く子も黙つたので、のちには眞物の支那の海賊が、わが八幡船の名を騙つたりした事もあつたので、區別のつかぬ場合も出現してゐる。

八幡船は、ノルマン征服と並んで民族の盛んなる海外進出を謳はれてゐる。

ノルマン征服とは西暦一〇六六年の出来事である。英國のウエセックスの王エドワードがセーヌ河の河口に獨立してゐたフランスのノルマンデイ侯ウイリヤムの所へ亡命した事があつた。エドワードがフランスに亡命したのはノースマンの一派デーン人によつて壓迫されたがためであつた。ところが、やがて此のデーン人が没落してアングロサクソンの時代が訪れる事となり、亡命中のエドワード王はブリテン島に迎ひ入れられた。而るにエドワードはフランスを去

るに當つてノルマンデイ侯に大變な約束をした。それはエドワード亡きあとには王位をノルマンデイ侯に譲るといふのであつた。

アングロサクソンは、エドワード王のかゝる密約を夢にも知らなかつたが、エドワード王が薨去するや約束を違へず精銳なるノルマンデイの軍隊は、ドーバーを越えて英國に殺倒した。かくして英國は凡そ百五十年間フランスの支配を受ける事となつた。

わが八幡船の進出がいかに支那海から西太平洋を壓してゐたかは、西洋史のノルマンコンクエストに比較される事でも明らかである。

續いてわが國には蓋世の英雄、秀吉が出現した。

秀吉は大アジア主義の實現を期さんとして朝鮮、支那は勿論、比島、印度までも、その勢威に屈せしめんとする成吉思汗の雄圖にも比すべき大計畫を樹立した。かくして先づ朝鮮を征せんとして前後七年にわたる懸軍百里の大出師が

行はれたが、惜しむらくは一世の英傑秀吉も海上権力の重要性を知らなかつた遠征軍は陸上ではしばしば破竹の進軍を續けたが、海上では逆に季舜臣に屢次破摧されて朝鮮征伐も遂にウヤムヤに終熄してしまつた。

當時名護屋を出航した水軍は七〇〇余隻と傳へられてゐるから、決して寡少なものではなかつたが、遺憾ながら水軍を率ひる名將に缺けてゐた。

季舜臣の創造した龜缸船といふ、龜に似た軍船が、前後左右に阿修羅の活躍をしたのは此の時であつた。

龜缸船は大砲を積んで武装してゐた。

わが水軍は殆んど全滅の悲運を喫した。

續く復舊戦にもまた季舜臣の智謀に奔弄された。

鳴洋渡の海底に張つた一本の鐵鎖のために、瀬戸に殺倒したわが軍船は次々と引つけられて顛覆、あへなく敗退したのであつた。

季舜臣は朝鮮政府のネルソンであつた。我が軍を海峽に追つて、遂に自ら壯烈な戦死を遂げたが、これまたトラファルガルに於けるネルソンの最後を聯想させる。秀吉の外征は、最も大切な海上權を忘れたがために、遂に八道鷄林を震撼させた壯途も空しく潰えてしまつた。

この點、歐洲大陸を席捲したが、ネルソンとの一戦に敗れたナポレオンの立場によく似てゐる。

ともかく秀吉の外征がやがて譯もわからずに消滅してしまふと、最早彼の衣鉢を繼ぐ者は出現しなくなつた。

そして間もなく徳川三代將軍家光の鎖國令にあつて、わが國は完全に太平洋の一孤島と化したのであつた。

これによつて、外征も八幡船の進出も一切合財が潰されてしまつた。史家を
して永劫に嘆せしむるも故なしとしない。

此の間、歐洲の各國は、競つて東洋に進出した、獨立したアメリカも遅まきながら加はつた。そして、太平洋では島嶼の切取り勝手時代が現出した事は、先に記したとほりである。

大東亞戰と海上權力

かくの如く、四面環海の海洋國でありながら、わが國が海外に國家的伸展をなしたのは神功皇后の三韓征伐以來四百年間を以て絶頂期とする。以來遣唐使の派遣や、或は支倉六右衛門の如く羅馬に使用した時代もあるにはあるが、それは國家組織による海外發展といふ事は出來ない。八幡船に到つては、ノルマン・コンクエストとその旺盛を争ふ世紀の景觀であつたに違ひないが、惜しむらくは國家的背景に缺けてゐた。いはんや鎖國令によつて、幕府が進んで國家の

門を閉鎖し三百年の孤立時代を創つたに到つては、いかに概嘆してもはじまらぬ。

鎖國令は、國家の門戸を閉鎖はしたが、わが海洋國民性は三百年の孤立にも拘はらず決して消滅はしなかつた。三百年間眠り續けた。血管の中には、なほ時機を得たなら雲を擱んで昇天する臥龍の如き海洋熱が潜んでゐたのだ。

それは日清、日露と灼熱の機を得るたびに赤く劇しく燃焼した。そして大東亞戰爭では、遂に三百年間にわたつたハンデキャップを取戻して、太平洋上には劃期的制海權が樹立せられた。

明治以來、わが海外發展は眞に驚異的なものであつた。鎖國によつて皆無であつた海力權力をわづか七〇余年間に、前人未踏の位置にまで築きあげたのだ。而しこれは決して七〇余年の短日月のスピード記録としての價值を有するのではない。三百年間の暗黒時代にもなほ滅する事なく民族の血管に脈々として傳

承せられたる海洋國民性は、一度び國家的統一を得るや、かくの如く盛んなるものであるといふ事を示したのだ。もと／＼わが國民は海洋國民であつた。而るに海洋國民として優秀性を充分に發揮せしめる時機及び組織を、遺憾乍ら余り持たなかつたのだ。

海洋進展の機を得た現在は四、五百年昔、八幡船が開拓した個人々々の海洋政策を、西太平洋でいまわれ／＼は、國家的に歸一せしめてゐるのに過ぎぬのだ。

海上權力からわが歴史を通覽すると、海に伸びんとする海洋國民性の本能が今こそ長年待ちに待つた時を得たことがわかる。併も海洋國家の特徴として、國家盛衰と海上權力の消長は表裡一體をなす。われ／＼が海を得て立つ時は、また國家隆盛の時であり、海を失せる時は國運を衰退せしむる秋である。

いまこそわれ／＼は青史のうちにも比類なき民族發展の好機を得た。

二、六〇〇余年、連綿たる民族の血は、いまこそ、いかに燃焼し、爆發しても過ぎる事はない。

大東亞共榮圈の將來

東亞の新秩序と共榮圈の關係

東亞新秩序がわが國家目的として中外に闡明されたのは、昭和十三年十一月三日の政府聲明であつた。

あとから考へるならば、これは對外的に極めて大きな役割を果した。汪精衛が蹶起したのはこの聲明に呼應したものであり、のちにアメリカが東亞新秩序の建設を認めずとして經濟封鎖を行なつた結果、わが國としては遂に大東亞共榮圈を樹立し、東亞民族の解放と聯繫をはかると同時に、日滿支三國の新秩序から、進んで東亞に伸びてゐた米、英勢力を潰滅させ、從來これら國家の侵略

の餌食となつてゐた東亞の諸國を、新たに打つて一丸とした東亞自體の再編成を行ふ出發點ともなつたからだ。

米、英の壓迫は、逆にわが國の決意を大東亞共榮圈樹立に走らせたのであつて、大東亞戦争は、禍を福に轉せしめんとして、着々その効果をあげてゐる。

昭和十三年十一月三日の政府聲明は、東亞新秩序を國家目的に規定したものであつた。

續いて首相談（同年十二月廿二日）によつて、東亞新秩序建設の三原則ともいふべきものが發表された、即ち善隣友好、共同防共、經濟提携がこれであつて、内容が示す通り、日滿支三國間にはこの原則によつて達成せられんとする新秩序が新たなる共同の國家目的となつたのであつた。

ところが、歐洲大戰が一九三九年勃發して以來、歐洲諸國は東亞から一時手を引かざるを得なくなり、これを機會に、英米の太平洋に於ける合作が急激に

進展して、英國退いたあとの番犬としてアメリカが進出し、加へてアメリカの太平洋制覇の野望は、絶好の機會とばかりに燃え上つた。わが國は長い支那事變の戦ひによつて疲弊しかけてゐる。併も日本は持たざる國である。支那事變遂行のための鐵、石油、綿花などの不可缺の戰略資材は悉くアメリカから供給されてゐたゝめに、この供給を停止するならば、日本の戰爭遂行は、これ以上擴大する事が不可能であらうと米國の爲政者達は考へた。米國が次々と資材供給を絶つた事は、事實わが國に取つては致命傷であつた。而し乍ら國家が生存するためには、徒らに糧道を絶たれたまゝで泣寢るわけには行かぬ。佛印進駐を契機にアメリカがわが資産を凍結し、日米英間には完全に貿易關係が停止された時、わが國としては、坐して死を待つより、進んで大東亞共榮圈を確立せんとする勇猛心を振るひ起した。

大東亞戰爭が勃發するや、間もなく日泰間には攻守同盟が成立した。續いて

翌十七年一月二日にはフィリピンのマニラが陥落して、同島は事實上わが掌中に歸した。また十六年の十二月十六日に上陸した英領北ボルネオの要衝が相次いで失落し、北ボルネオからだけでも、昭和十七年度中に五〇萬トンの石油が採油されると、東條首相は七十九議會で説明した。東亞共榮圈へ進展の途はかくの如くして開けた。

日本の戦時資源

戦時資材が、戦時にあたつて國家の要請に應じ得るか否かは、極めて重要な問題である。

戦時資材といつても、いろいろの解釋が成立するが、學說の一致せるところは、石炭、鐵、石油、銅、鉛、窒素、硫黃、棉花、アルミニウム、亞鉛、ゴム、滿俺、ニッケル、クローム鑛、タンダステン、羊毛、加里、燐酸、アンチ

モニー、錫、水銀、雲母などであらう。

わが國では所在の關係で、棉花、羊毛、銅、眞鍮、鉛、錫、ニッケル、アンチモニー、石油、ゴム、鐵、石炭、その他木材、皮革、麻等を戦時下國民消費制限の品種にあげてゐるから、これらは重要資材といふべきである。

ドイツのゲッペルスは、基礎原料として鐵、石炭、石油、棉花、ゴム、銅をあげて居り、アメリカは、資源の有無によつて、持たざるもの、持つてゐても戦時態勢下には保管と統制を必要とするもの、或は尠くとも政府に於て看視すべきものを三通りに區分し、戰略資材、緊要資材、必需資材の三つにわけてゐる

戰略資材はアンチモニー、クローム、滿俺、水銀、雲母、ニッケル、水晶、錫、タンゲステン、マニラ麻、キニーネ、ゴム、生絲、椰子殻炭の十四品目であり、緊急資材にはアルミニウム、石綿、黒鉛、コルク、皮革、カボック、阿片、羊毛、沃土等十五品目をあげ、必需資材にしては鐵鋼、銅、鉛、石油等卅

四品目をあげてゐる。

戦時資材の區別に就いては、右の如く戦時に於ては持たざるが故に重要品目扱ひにするなどと國家によつて戦時資材の種別を異にしてゐる。

わが國は持たざる事に於て、世界的に知られてゐる。

戦前に於ける列國重要資源の自給率をあげてみれば

	石炭	鐵礦	石油	銅	棉花	ゴム	羊毛
米國	一〇四	九八	一〇六	一一八	二一五	〇	五五
英國	一三六	七〇	二	〇	〇	〇	二二
獨逸	一二二	三〇	五	一一	〇	〇	一〇
伊太利	三	七六	一	二	〇	〇	二六
日本	一〇八	六五	一七	九二	四	〇	〇

原料資源に就いて、最も持てる國はアメリカである。それに續くのが英國で

あつて、續いて蘇聯である。

而るにわが國は、遺憾ながら持たざる部類に入つてゐた。資源の種類豊富に於ては、各國に比して劣らなかつたが、その量に於て缺ける所が甚だし

い。前述の表を見ても明らかな如く、辛じて間にあふのは石炭位であるが、これも戦時下、重工業の全力運轉がはじまると、不足勝ちであつて、いはんやこれを海外に輸出するが如き事は、夢想だに許されない。

この點、アメリカの棉花の如く、國外の消費者がない時には生産を半減しなければならぬ惱みの如き贅澤極まるものといふべきである。

なほわが國に於ける重要原料の、自給率をあげてみれば次の如くである。

(但し、農産物、畜産物、水産物は扱はず自給率の算定は、三菱經濟研究所の調査によつたものを轉載す)

一〇〇%以上 生糸等

九〇—一〇〇 石炭、鋼材、硅砂、窒素、木材、潤滑油、等

五〇—九〇 銑鐵、銅、クロム、曹達

一〇—五〇 麻類、鐵鋼、屑鐵、鉛、亞鉛、錫、滿俺、タンダステ
ン、モリブデン、食鹽

一〇 以下 羊毛、棉花、石油、ニッケル、アンチモニー、水銀、
アルミニウム、雲母、石棉、燐礦石、加里鹽、硝石

大東亞共榮圈の資源

わが國の戦時資源は、多く國外に求めてきた。これを従來の供給關係から眺めるならば次の如くである。而して此の供給關係は馬來半島、フィリピンの制壓によつて、従來よりは、遙かに緊密な關係に於かれるものであつて、殊に、

馬來半島の如きは世界の生ゴムの半分以上を消費するアメリカの大半の原料を供給してゐたので、それが大東亞共榮圈内に切替えられるとなると、今後の經濟狀態は、まるで面目を一新する事になる。

併しこゝでは原料は、たゞあるがまゝに説明しておく。これにいかなる政治的解釋を下すかは讀者の自由であつて、また興味津津たるものがあらう。

鐵鑛 わが國は從來滿洲、支那、南洋から鐵鑛を輸入してきた。南洋の供給地とは、馬來半島であつて、スリメダン、ヅングン、大洋各鑛山からは二〇〇萬トン近く輸入されてゐた。

鐵鑛は日滿支ブロックの中でも、比較的恵まれなかつた。埋藏量として推定されるものを眺めても、わが内地は八千萬噸であり、朝鮮はわづかにその五割増に過ぎず、北支を合しても四億萬噸位であつたが、比島ミンダナオ島のミン

ダナオ州に發見されてゐるのは品質は五二%であまり良鑛ではないが、その埋藏量は五億噸といはれてゐる。

最も埋藏量から言へば滿洲は壓倒的であつて、十二億噸と推定されてゐるが地理的關係等から潤澤に出廻るまでにはなかく大變である。

滿洲と比島を地理的に對照すると遠いフィリピンよりは滿洲の方が便利で近いやうに考へられるが地圖上は別として、同距離の海上運賃の如きは陸上に比して十分の一内至廿分の一位に當る事があり、従がつて、生産地から港までの輸送が問題になつて來る。大連沖渡し一噸の價格を、比島渡しのものに比較すると距離こそ近いが、價格は比島の方が遙かに安くなるのは、この間の事情を物語るものであらう。

この外既に開拓されて輸入されてゐるものに海南島田獨鐵山の露天堀がある。褐鐵鑛で八〇%前後の純度を持ち、併も三亞港からわづか一〇キロの背地にあ

つて、交通の便もあり、全山露出した鐵山であつて、そのまゝ掘崩して使用する事が出来る。また同島で發見された石碌鐵山は露頭の分だけで埋藏量、一億噸といはれてゐるが、たゞ可成りの奥地にあり、且海岸も良くないので新に港灣設備も必要なので、實際鐵鑛が出廻るには、時日を要するであらう。その他佛印等では鑛脈はあるが、今迄充分の調査がなされなかつたゝめに、まだ將來の希望は充分持ちうる。

石炭 資源的に貧弱なわが國ではあつたが、貧弱なものゝ中では、石炭は比較的恵まれてゐるものゝ一つである。併し北支には莫大なる石炭資源があつてその埋藏量は主として山西省であるが一、三二八億噸と言はれる。わが國埋藏量の約七倍で、これが交通の便を得て充分に出廻り出すならば、石炭の惱みは完全に解消する。

併し石炭に就いて大東亞共榮圈を眺める時、有名な佛印ホシゲイの鴻基炭ホシゲイの存在を忘れてはならない。

鴻基炭は、無煙炭で良質な事に於て世界的品位を持つ、併もなほ鴻基炭の強みは採掘に便利な事である。即ち東京地方トウキョウのアロン灣沿岸に鑛區があり、位置も水平線と同高であるから、深く穴を堀る必要がなくて輸出に便利である。加ふるに露面堀で良質であるから、いかなる石炭市場に於ても鴻基炭は壓倒的であつた。たゞし目下のところは生産高は餘り多くない（一九三五年度に於ける、日本、滿洲、支那、鴻基炭の生産高は次の通り）

（單位百萬噸）

内地	三八、〇
滿洲	一二、二
北支	一四、二

ゴム 問題のゴムである。アメリカのゴムと日本の場合の石油は、何れも戦時下不可欠資源でありながら、併も兩國とも皆無である。併し同じ皆無の場合でも、日本とアメリカでは需要の強弱から大分立場が違ふ。

アメリカが世界的ゴムの消費國である事は既にアメリカの不足資源ゴムの項で述べたところである。全世界ゴム工業の半分以上がアメリカに於て行はれ、併もアメリカのその生ゴムは、悉く馬來半島及び蘭印から生産されてゐる。

馬來半島と蘭印から生産されるゴムの量は全世界生産額の八〇パーセントにあたる。南洋全體では九七パーセントになるから、全世界のゴムはこゝから出るとみて間違ひない。

ゴム生産量の全體に對する比率は次の如くである

英領馬來	四一・〇%
蘭 印	三六・〇
セイロン	五・〇
佛 印	四・七
泰	四・〇
英領北ボルネオ	三・四

併も生ゴム消費量はアメリカが全世界の五六パーセント、残りを英國八パーセント、ドイツ七パーセント等にわけてゐるので、全世界のゴムはアメリカが獨占してゐる。

アメリカは既に三千万臺の自動車を持ち、なほ年々の生産は五百萬臺を突破する。それに必要なゴムの量は、そのまゝ外の國へ持つて行つても、充分過ぎる事は當然である。ゴムの消費だけは、各國ともアメリカの七分の一から十分

の一以下である。

これらのゴムは、例へばアメリカへ最も多く輸出してゐた馬來半島の例を考へてみても年産約四〇萬噸のゴムは、太平洋沿岸だけの消費ではあり余る。

馬來のゴム栽培はアメリカの自動車工業と消長を伴にしてゐる。自動車工業が驚ろく程發達してゐるアメリカにしてはじめて六〇萬噸のゴムが消化されるので、馬來半島の四〇萬噸でもアメリカを除いた他の國全部が合同して一年間にやつと消費する程度である。

(一九三六年度馬來半島のゴム生産高は三五・九萬噸、蘭印は三一・五萬噸)

馬來及び蘭印でゴム栽培が發達したのは比較的に新しい。

古來この方面にはガタ・バーチャその他の野生ゴムが、生育してゐたが企業として經營されるやうな大量の生ゴムはどうしても採取されなかつた。所が一八六七年アマゾン流域から野生のバラゴムの種子を英國に輸入し、英國からジ

ヤバ及びセイロンに送られて試植された。ジャバでは有名なホイテンゾルホ植物業で試植されたのがバラゴム繁植の起源をなした。併し馬來半島に於ても一九〇〇年初頭には、まだゴム生産量は微々たるものであつた。一九〇五年の生産高はわづか二〇〇噸前後で、南米の原始林産三五、〇〇〇噸の世界一にはいかにしても及ばなかつた。

ゴム栽培が發達したのは一九一〇年頃、アメリカに於ける自動車工業の勃興によるもので、ゴム栽培は馬來半島及び蘭印の最も重要な農産物となつた。

歐洲大戰の終了後歐米を襲つた不況のために一時ゴムの需要が減少した事もあつたが、一九二五年、自動車工業の急速な發達に併行して價格も一躍三倍近くの一封度四志以上に暴騰した。價格騰貴を來したのはバルーンタイヤの出現によるものであつた。所が一九二六年には各地から生産品が競つて出廻つた、め半値以下に暴落したが、一九三四年には和蘭、英、佛、印度、泰による價格

維持協定が成立して、圓滿なる發展の軌道に乗つた。

一方蘭印へ種子を輸出したアマゾン流域の原始林は緯度の關係で、どうしてもゴム園栽培には不適當なため、とう／＼今ではゴム市場からは顧みられなくなつたのは皮肉である。

石油 東亞のなかで石油の多量に湧出するのは英領北ボルネオ、蘭印等である。わが國、滿洲支那は、石油だけはどうにもならない。滿洲支那には油母頁岩があり、これから人造石油を採油する事が出来るが、技術的に多量生産するまでには時日が必要である。

而るに蘭印、英領ボルネオは多量の石油を産出するのは周知のところである。英領北ボルネオに對しては、既に皇軍が上陸して居り、一九四二年度中には五〇萬噸前後のものが我が國に輸入される見込がついた、と七十九議會の陸軍

大臣の戰時報告にのべられてゐる。

併も差當つての五〇萬噸とは、英が退却に當つし油田を破壊したゝめに、應急に修理したり等して採油される分量を言ふのである。なほ皇軍はタラカン島の所在地タラカン島にも一月十一日上陸直ちに同島を占領した。

蘭印は太平洋に於て、アメリカを除く最大量の石油資源國である。

蘭印の石油生産額は大體年産七〇〇萬噸である。これは世界的にみれば二パーセント乃至三パーセントであるが、わが國にあてはめるならば、總需要を満たして餘りある事は最早日本人の常識となつてゐる。

蘭印の石油埋藏量は一億三千萬噸といはれるが、蘭印の中にはニューギニアの如く、殆んど開發されない大島があるので、正確な事は不明である。

第一次歐洲大戰で、石油がいかに聯合國の戰勝に貢獻したかは「聯合軍は石油の波に乗つて勝利の岸に着いた」と叫んだカーゾン卿、「その必要血に劣らざ

る石油」と石油SOSをウイルソン大統領に打電したクレマンソー佛首相など石油にまつはる不滅の至言は今なほ世界各國に取つていさゝかも價値を減ずるものではない。

蘭印でもボルネオのタラカンや、バリックババンでは石油が自然噴出して何れも眞黒にそめ、或は海底から湧出して石油の波が海岸に寄せてゐる。

而るにわが國に對して、アメリカは一滴の石油の供給までも止めてしまつたのだ。

蘭印島嶼に於ける最近の石油産出量は左の通り

全體に對する比率

スマトラ	五、二〇八、〇〇〇トン	六五%
ボルネオ	一、七九三、〇〇〇 "	二二%
ジャバ	八三、九、〇〇〇 "	一〇%

棉花 棉花の栽培は、わが國は問題にならぬ、最も有力なのは支那であるが日滿北支の生産比率は、八パーセント四パーセント八八パーセントの割合であつて、北支は極めて重要な役割を擔つてゐる。併し現在の生産狀況は、全部合して卅萬トン前後に過ぎず、需要の半分をも満たしてゐない。

羊毛 世界的羊毛の供給地は濠洲である。濠洲の小麥と羊毛は、英國を養なつてゐると稱して過言でない。

併るにわが國は、羊毛に就いては現在まるで貧弱である事は言ふ迄もない。わが國ではコリデル種等がわづか五萬頭ばかり飼育されてゐるが、これでは需要のわづか一部に過ぎぬ。併しこれは飼育の問題と、且人工製品によつて或る程度の緩和が出来る弾力性を持つてゐるから、數字を掲載する煩雜を省略する。

大東亞共榮圈の將來

文化の發達は、生活の必需品を、地球を縦に割つた西瓜現象で説明するやうになつた。

即ち、北の方の蟹や、鮭、鱈が必要かと思へば、熱帶資源のゴムがなければ自動車は廻轉しない。オットセイ、アザラシの毛皮が必要であると同時に、椰子殻炭は防毒面に不可缺であり、防毒面でなくても規那の如き、キニーネ丸の原料は南洋以外には、殆んど生産地がない。また調味料の胡椒も南洋の特産だ。人間生活の必需品を産地別にわけると、經度に従つて縦に割つた地域のもものが必要である事に氣がつく。

そこで南北資源の流通をはかつたものが最も理想的な繁榮を圖る結論に到達する。地中海の如き、東西に長い地域の緯度線を横に這つたところで、資源的

には余り足しにもならぬ。此の點では持てる國アメリカも今や資源的に非常な苦境に立つてゐる、石油や、鐵、棉花の如く、余り過ぎるものもあるが、錫、タンングステン、マニラ麻、キニーネ、ゴム、生糸、椰子殻炭といはゆるアメリカの戰略資材十四品目中の半數が、南洋資源に依存してゐた、めに、大東亞戰爭と同時にアメリカには輸入が杜絶えてしまつた。わが國の生糸は石油、屑鐵スクラップと交換で貿易を強めたやうなものだから入らぬとしても止むを得ずとして、馬來を押へられて杜絶したゴムと錫の打撃は大きい。キニーネの如きは蘭印の特産であり、タンングステンは南支那が世界的市場で、援蔣用に送られたガンソリン飛行機等のかはりにアメリカへ送り出したもの、またフィリピンのクローム鑛は米國の軍艦の鍛鐵用として不可缺であつて、これが無ければ砲塔などの裝甲防備は施さす事が出来ない。

而も立場をかへて、東亞共榮圈が完成した曉に於ける太平洋諸國は、一躍持

てる國に躍進する。

以上述べた資源が東亞共榮圈内を廻轉すれば、東亞の繁榮は、對岸アメリカに匹敵して勝るとも劣らない。アメリカは物によつては有り余るが、その代り不可缺資材の品にはどうしても手に入らぬものが出來てくる。けれども熱帶國と一環をなすわが大東亞共榮圏には、絶體にかゝる恐れがない。

併も大東亞共榮圏の最大の強みは、これから新しく出發するものが多い事だ。海南島は支那事變によつてはじめて近代科學の一翼に貢獻する事を得た。

佛印も地下資源の調査はこれからである。ニューギニアに到つては、わがヤツブ島からわづか六百哩の南に、今なほ人跡をとゞめぬ千古斧越の密林があると思へば、まるでお伽の國の探險記にでもありそうな話である。

比島だけでも七、〇八三の島數から成つてゐる。西太平洋から南太平洋にかけて、散在する島の數は、文字通り星座とその數を競ふであらうが、この中で

事情のよく知られてゐるものは極めてわづかであるから、今後どのやうな資源が飛出してくるか、大東亞共榮圏の將來は、洋々たる見通しと共に、興趣が盡きない。

大東亞戰爭は持久戦にならざるを得ない。

而も持久戦は大東亞共榮亞に前途洋々たる安緒を與へる反面、米國には痛恨を與へてゐる。

わが國の苦しみは、大東亞共榮圏が廻轉するまでの一時の悩みであるが、米國に取つては、當分はストックによつて補ひ得るとしても將來は苦惱が深刻化するばかりである。

英國も無論の事である。東亞に於ける巨大な殖民地を自ら防衛する實力なしとすれば、一體誰れがかはつて守らんとするのであらう。

アメリカはイギリスの番犬としては余りにも無能である事を曝露してしまつ

た。

世界は今後三つの經濟圏にわかれるであらうと獨逸の經濟學者は説をなしてゐる。一つは獨伊を中心とした歐洲經濟圏、他は北中南米を一にした汎米經濟圏、第三のものはわが國を中心とした大東亞共榮圏である。

この中で、最も雄大なる共榮圏は大東亞共榮圏だ。何故なら、大東亞共榮圏に入る國々は殆んど原料資源國であるからだ。而も資源の中には、此の共榮圏以外には全世界に産地の無い貴重なものが含まれてゐる。

將來は、此の三つの圏の中にそれ／＼の經濟が廻轉する事は明瞭である。

その一つの學説として獨逸のフンク經濟相が説くところは、通貨は金準備に依存するものではないとなす通貨制度に對する革命意見である。フンク博士は通貨は國家の與へる價值即ち國家によつて規制せられ經濟秩序が與へる價值に依存するとなしてゐる。歐洲に於てはそのためにライヒスマルクが歐洲經濟の

支配的地位を占めなければならない。そして清算協定の確立を計らなければならない。またある種の物は不足するであらう。それを求めるかはりに高度に發達した工業生産物を與へるのだ。なほこれがためにはある種のもの、自由（例へばガソリン消費の規別）が制約されるであらう。となしてゐる。

かゝる新しい經濟觀が、やがて實現するかどうかは別問題である。兎に角、かゝる思想が、將來に何らかの強力な暗示を與へる事は否定出來ぬ。アメリカに全世界の金の九割が集中しても、ドイツは平氣であり、またわが國も支那事變から更に新に大東亞戰爭に勇敢に對處してゐる。これは將來經濟的にも過去にとらはれないものが起るであらうといふ豫想を許すものである。

その飛躍が、財政上、或は金融政策上、いかなる形態を取るか、歐洲經濟圏がフンク博士の豫言を實現するか否か、それらの問題は學者の研究題目として今後に残されてゐる。

たゞ、こゝに明確なる一事は、第一次歐洲大戰後の如く、金が集中し過ぎ、或は金が不足し過ぎて、金の偏在が不況の原因となつた如き、自由經濟の缺陷は、二度繰返されないのであらうといふ事だ。

かゝる經濟圏が確立された時、その經濟圏外にはみ出した國はどうか。

蘇聯の立場はしばらく措く。

英國は經濟圏と經濟圏の谷間に、わづかに存在を續けるだけではあるまいか。そしてその殖民地が崩壊するたびごとに、英國の生命は削り取られて消え去るのだ。

若しも英本土が失陥するとすれば、英國が落ち行く先はカナダ以外にはあり得ない。

カナダは一應英國の蒙塵を迎へるであらうが、英本土を失したあとの英國は最早近代國家としての價値を喪失してゐる。そしてその後には於て、直接國土を

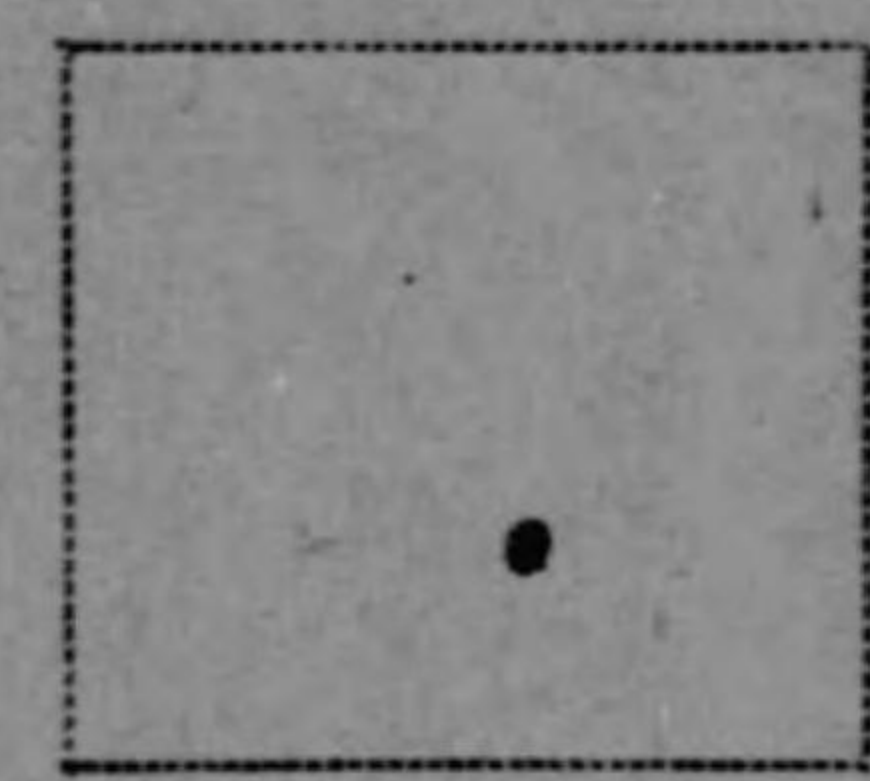
隣り合せにした英國と米國は、どこまで協調してアメリカ大陸に棲息する事が出来るであらうか。

アメリカに取つて必要な英國とは、アメリカの防衛に役立つものでなければならぬ。アメリカと同じ大陸で鎬を削る英國では斷じてない筈である。かつて五〇隻の驅逐艦を援英用に送つたアメリカはその代償として大西洋上の英領島嶼を得た。そのアメリカが譬え英國のカナダ遁入を許したとしても、逃げ込む時には丸腰姿を覺悟しなければならぬであらう。アメリカはピストルと劍を持つた英國がアメリカ大陸へ入るのを好まぬに定まつてゐる。その時、濠洲はどうなるか、英國が歐洲を捨てたあとのスエズ運河は如何。

併もそれを避けんとなれば、英國は、英本土にしがみついてゐる島と運命を共にする以外にはないのだ。太平洋に於ても、大西洋に於ても一九四二年は歴史の時代になる事が明からである。

昭和十七年二月一日 印刷
昭和十七年二月五日 發行

製複許不



大東亞海上決戦

定價 金壹圓五拾錢
送料 拾錢

著作者 田口利介

發行者 遠藤健二

印刷者 日出島 眞

印刷所 林印刷所

發行所 東京市芝區新橋三丁目二番地 遠藤書店

振替東京一〇九二二三三番
電話銀座一四七五番

東京市神田區淡路町二丁目九番地 配給元 日本出版配給株式會社

宮川三千藏著

刊新



四六判上製
二三〇頁
定價一・五〇
送料一〇〇

陸軍中將 佐藤正三郎閣下
伯 爵 有馬頼寧閣下

推薦

一機關銃分隊長であつた著者が、出征以來身をもつて體驗した攻撃の中、最も激戦であつた廬山に於ける山嶽戦である。此の山嶽戦が如何に激戦であつたかは過ぐる年飯塚、加納兩部長を喪つた事によつても想像し得やう。此のたか痛恨事は著者をして、嘗つての部長並に戦友の英靈への饞けとして、この大筆をもつて書かせたのである。此の死線を越えた戦闘記録こそ後世に残るの大雄篇である。

目次

- 一、揚子江
- 二、廬山々麓へ
- 三、ナマコ山占領
- 四、飯塚部隊長戦死
- 五、金輪峰總攻撃
- 六、戦車隊の猛進
- 七、廬山へ入つて一ヶ月
- 八、夏から冬へ
- 九、徳安城攻略す
- 十、永修へ追撃
- 十一、江北作戦
- 十二、上海にて

京東替振
番貳參貳九〇壹

店書藤遠

區芝市京東
二ノ三橋新

宮川三千藏著

傷病兵の心理

四六判上製
二百九十頁
定價一・六〇
送料〇・九

有馬頼寧伯推薦

推薦の言葉 廬山は支那に於ける靈山の一つである。その靈山に於て有史以來未だ嘗つてない戦ひが行はれた。東京部隊たる飯塚、各部隊の攻撃がこれである。廬山の激戦は武漢作戦の華として謳はれ、壯烈極まりない戦闘が展開された事は未だ記憶に新な事である。飯塚部隊の一人として、此の激戦に参加した宮川君が、廬山攻略後間もなく病に倒れ、第一線の野戦病院に收容されて約三ヶ月、不自由な生活の中にあつて戦病兵としての貴重な體驗を通じて書かれたのが本書である。今事變始まつて以來既に五星霜を経んとしてゐる折柄、戦場の實相を忌憚なく赤裸々々に畫いた點に於て眞に意義深いものと思ふ。銃後國民をして更に、傷病兵に對する認識を新たにすものと信じて疑はない次第である。

遠藤書店發行

出雲耕兒著

大陸の夜明け

四六判上製
定價一・七〇
送料一・二

本書は「戦場の孤兒」に於て特異な作風を見せた著者が、再び世におくる作品集である。收むる處六篇の珠玉、總て材を大陸にとり、黎明期にある現地の種々相を、興味深く描寫してゐる。「強ひられた決死隊」に於て抗日軍の内情を暴露し、「蝸子」に依て、力弱い民衆が皇軍の疵護を受けて起ち上る姿を、また「楊家の人々」では、日本軍に協力する愛すべき一族を描いて興味津々たるものがある。「野に育つた子供」及「戦禍」は、子供の偽らざる行動を捉へて、讀む者をして、涙と笑ひを催ほさしめる。特に、中篇「姑娘の決心」は、信頼する自國の軍隊に裏切られた姑娘の懊惱を主題としたもので、示唆に富む作品である。

敢て一讀をおすすめする次第である。

遠藤書店發行

文學博士 佐藤清太郎著

最新刊

拓士の譽れ

四六判上製
四二〇頁
定價二・三〇
送料一四

日伯中央會々長 徳川頼貞侯推薦

移植民研究の第一人者、佐藤先生の名著！祖國を離れて海外に活躍する同胞の心構へは國權の及ぶ所と及ばない所によつて違はねばならぬ。國權の及ぶ所であれば都合がよいのは云ふまでもない。然し國權の及ばない所での心構へはどうすればよいか、本書は之に答へるものである。

祖國から、はる／＼五千里の彼方に居るブラジル二十數萬の同胞がブラジルの國權の下に立派に伸びて行つて居る。此の立派な事實を更に滿洲、支那は勿論全世界至る處に生かす事は膨脹日本國民の最も必要な事ではあるまいか！

- 目次
- 一、名譽の辭表
 - 二、協調心
 - 三、眞心
 - 四、魂は觸れあふ
 - 五、幼き者のために
 - 六、夜半の惨
 - 七、農園の光
 - 八、表彰
 - 九、日伯の契り
 - 十、夏期講習會
 - 十一、記念音樂會

文學博士 佐藤清太郎著

最新刊

海外同胞の龜鑑 中村先生

四六判上製
定價一圓
送料拾錢

中村先生は長崎縣の方で、六十歳に近い御齡にも不拘、敢然として、五千里の彼方にあるブラジルへ在留同胞教化のために渡られたのが今を去る十九年前であつた。中村先生が到着の當日からブラジルの習得を始められて以來、十七年間に亘つて日伯兩國の福祉のために盡され、昨年彼地に於て永眠せられたのである。其間日本人は勿論ブラジル人間に於ても中村先生の功徳を知らざる者は一人もないと云つても過言ではない。現在に於てもブラジル人が中村先生の肖像を見て「お！偉大なる日本人よ！」と目撃して對談に移ると云ふ此の一事を以ても如何に先生の遺徳の偉大であるかを窺ひ知る事が出来る。世界に對しての、大斯の如き偉大なる中村先生を生んだ日本人である我々は、國民の中から現はれきな誇りである。そうして中村先生のやうな偉人が今後益々國民の中から現はれん事を祈求して止まぬ次第である。全國民一人残らず此の偉大なる日本人中村先生を知つて頂きたいと考へるものである。

目次

- はしがき
- ことのおこり
- あらましの経歴
- 逸話のかずかず
- ブラジル墓地の日本人墓碑
- 穴の掘りかへ
- ブラジル人日本人の概をかつぐ
- とこしへに咲く徳の花
- 先生の公文書
- 二通の公文書
- 遺徳をあまねく世の人々に
- 榮冠
- 日伯の奇縁
- 一人よりも二人、二人よりも三人

東京市芝区新橋三ノ二

遠藤書店

振替東京一〇九二二三番

東京市芝区新橋三ノ二

遠藤書店

振替東京一〇九二二三番

最新刊
出雲耕兒著

●●●四六判 三百六頁
●●●定價 壹圓五拾錢
●●●送料 九錢

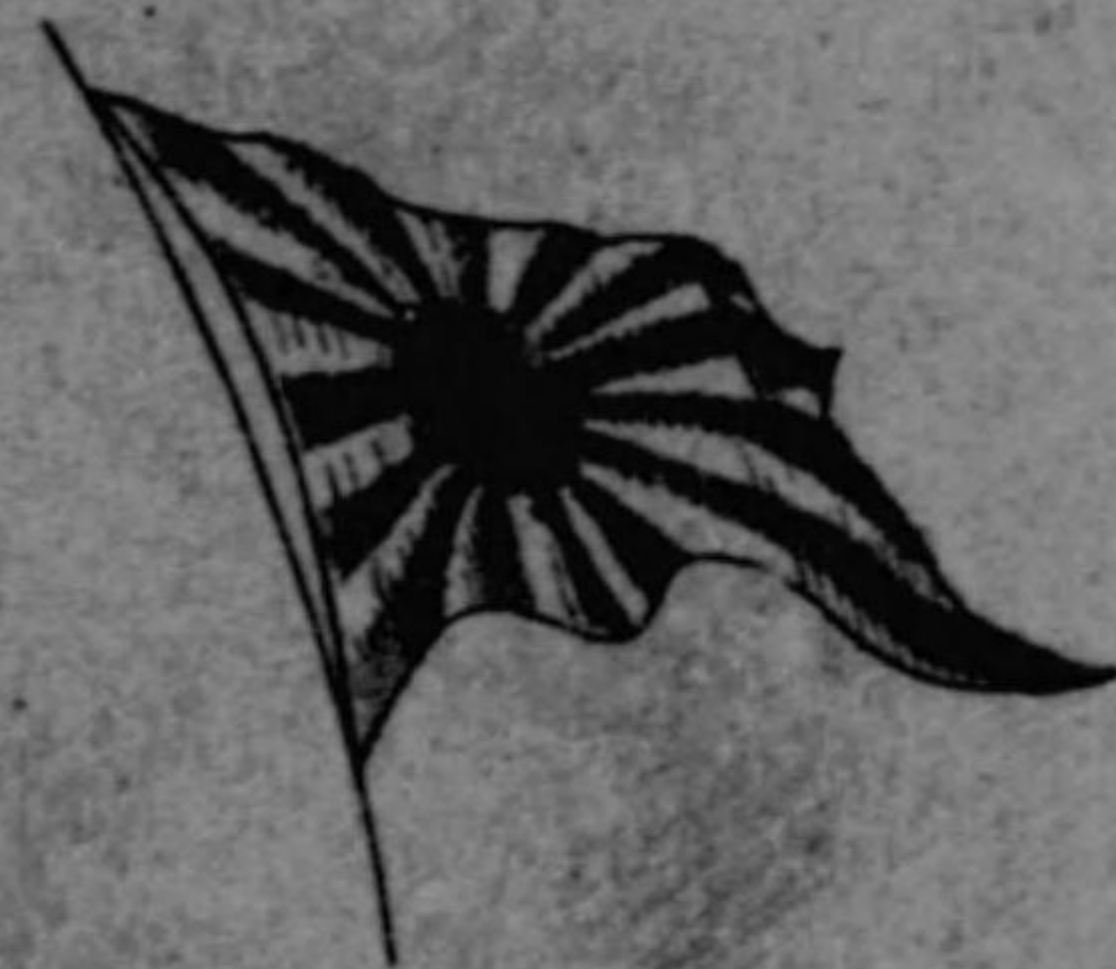
戦場の孤兒

著者は、今事變勃發と共に出征し、北支の各地に轉戦、徐州戦に於て遂に負傷した歸還勇士である。本書はその豊富な見聞と、戦地の民衆に注ぐ深い愛情とを以て書かれた、戦場をさまよひ続ける家なき子の物語である。しかし、それは單なる物語ではなく、聖戦を側面より見た一つの戦記である。抗日に狂奔する支那軍、軍費を強要される富豪、その騒然たる中を、天衣無縫の家なき子は自由奔放に飛び廻る。だが、その彼も、やがては日本軍の温情に依つて教へ導かれる。

共に收めた「台兒莊戦記」は、著者が身を以て書き綴つた實戦記である。讀者は本書に依つて、皇軍の偉大さを愈々痛切に知るであらう。尙戦禍は、同著者の一篇である。

東京芝新橋 遠藤書店發行 振替 東京 二九〇二番
三ノ二(三立ルビ)橋

HI4N-33



定價[㊦]¥1.50

遠藤書店刊

PRIVATE
★

